



東洋インキSCホールディングス株式会社から
artience株式会社へ2024年1月1日に商号変更しました。

社名に込めた思い

新社名artience(アーティエンス)は、「art」と「science」を融合した言葉です。artは色彩をはじめとした五感や心への刺激に加えリベラルアーツの視点、scienceは技術や素材、合理性を表現しています。当社の強みであるartとscienceを融合し磨き上げることによって生まれる、人の心を動かす「感性に響く価値」を世界に提供していくことで心豊かな未来の実現に貢献していくという思いを表しています。

株主のみなさまへ

第186期報告書

2023年1月1日—12月31日

株主のみなさまへ	1
株主還元方針	3
中期経営計画	4
業績ハイライト	5
戦略的重点事業	7
事業トピックス	8
連結財務諸表の要旨	9
株式情報	10

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
はじめに、2024年1月1日に発生した能登半島地震により被災されたみなさまに、心からお見舞い申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、雇用・所得環境が改善するもとで、各種政策の効果もあって緩やかな回復がみられた一方、物価上昇や中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等、先行きは不透明な状況にあります。このような環境のなか、artienceグループは経営方針である「事業の収益力の強化」、「重点開発領域の創出と拡大」、「持続的成長に向けた経営資源の価値向上」の3つを掲げ、経営活動を行ってまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は増収となり、営業利益および経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益は、それぞれ増益となりました。

artienceグループは、2030年に向けて“GROWTH”を大きな旗印として、3つの基本方針のもと企業改革に取り組んでまいります。2024年からの中期経営計画において、一つ目の方針「高収益既存事業群への変革」では、これまでの販売戦略、ビジネスモデル、提供価値を見つめなおし、高収益事業群への変革を実践してまいります。二つ目の方針「戦略的重点事業群の創出」においては、モビリティ・バッテリー関連事業と、ディスプレイ・先端エレクトロニクス関連事業の2つを重点領域とし、新たな収益基盤の確立に注力してまいります。三つ目の方針「経営基盤の変革」では環境負荷低減、人的資本の強化、技術・知財基盤の強化などに取り組んでまいります。

これら方針を掲げ、結果にこだわり着実に実践していくことで、新しい時代が必要とする提供価値をみなさまへお届けしてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも末永くご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年3月

代表取締役社長 高島 悟



社会・お客様

私たちの発信と実行により

選ばれるブランドへ

Empowering Feeling
artience

Brand Promise

感性に響く価値を創りだし、心豊かな未来に挑む

持続的に輝き続ける未来のために必要なこと。

それは、人々が心豊かに暮らすことのできる社会の実現であると考えます。

私たちの役割は、さまざまな技術や発想をつなぎ、社会が抱える課題を解決に導くこと。

自社だけではなく、パートナーと協業しその力を組み合わせることで、人々の心を充たす美しさや快さ、安心を届けていきます。

目で見えること、触れて感じること、あるいは製品の品質を通して感じることなど人々の感性に響く価値を創りだし、心豊かな未来の実現に挑み続けます。

Our Principles

行動指針

art

core

science

好奇心と遊び心

世界中の仲間とともに

可能性を考え抜く

一日一感

いまを全力で楽しむ

PDDDDCA

自分の色を出す

まずは今日から自分から

成果にこだわる

Corporate Philosophy

経営哲学

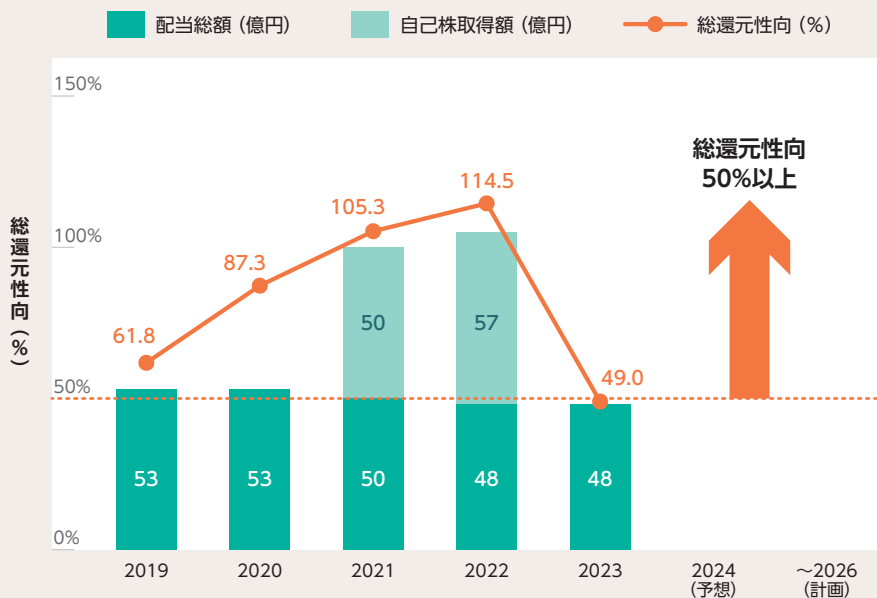
人間尊重の経営

株主還元方針

株主還元方針

当社は、株主還元を重要な経営課題として認識しています。配当に関しましては、安定した配当を基本としつつ、利益達成時の余剰キャッシュを、戦略投資および自己株式取得などの株主還元へ充当してまいります。また、総還元性向は50%以上といたします。

- 安定配当を基本としつつ、利益達成時のキャッシュの余剰を戦略投資および自社株取得などの株主還元増へ充当する
- 総還元性向50%以上とする



1株当たり
年間配当金

90円

90円

90円

90円

90円

90円
(予想)

中期経営計画：artience 2027

2023
12月期

artience 2027

2026
12月期

持続的成長

売上高 3,221億円
営業利益 134億円
営業利益率 4.2%
ROE 4.2%

売上高 4,000億円
営業利益 250億円
営業利益率 6.3%
ROE 7.0%以上

事業ポートフォリオの
変革

資本効率と
キャッシュフローの
最大化

企業基盤構築と
サステナビリティ
経営実践

高収益既存事業群への変革

成長事業の
拡大

収益基盤事業の
利益向上

不採算事業整理
戦略再構築

戦略的重点事業群の創出

モビリティ
バッテリー

ディスプレイ
先端エレクトロニクス

次世代事業
(環境・バイオ
・エネルギー)

経営基盤の変革

ヒト/風土/組織
エンゲージメント
DE&I

カネ
CFマネジメント
資本効率化

モノづくり
asv2050/2030
SCM

情報/DX
デジタル変革
SAPの最大活用

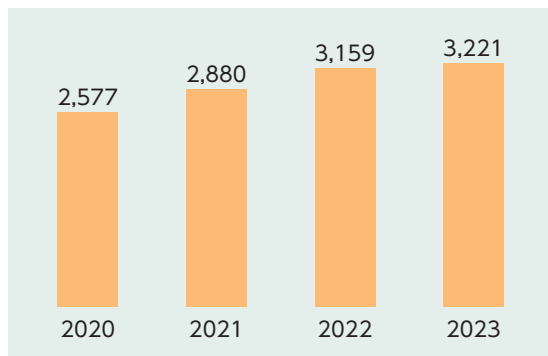
技術/知的財産
技術基盤構築
攻めの知財活用

業績ハイライト

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年度の期首から適用しており、2022年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
 ※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

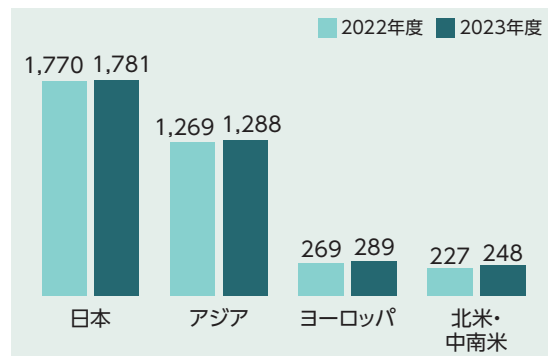
売上高推移

単位:億円



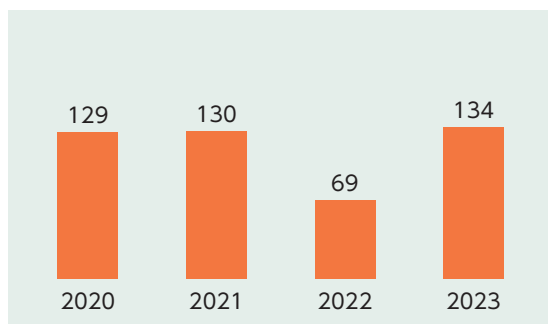
所在地別売上高

単位:億円



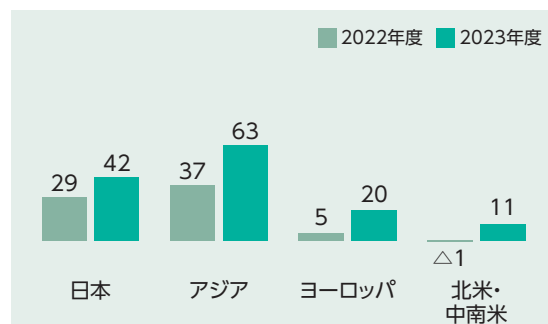
営業利益推移

単位:億円



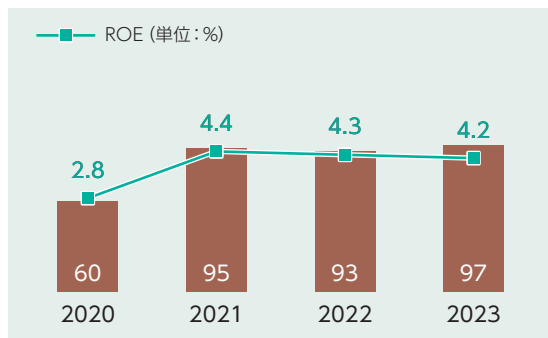
所在地別営業利益

単位:億円

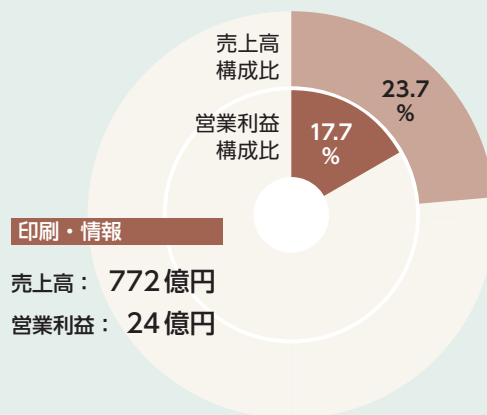
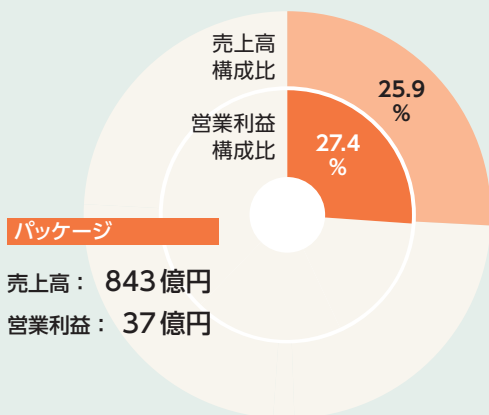
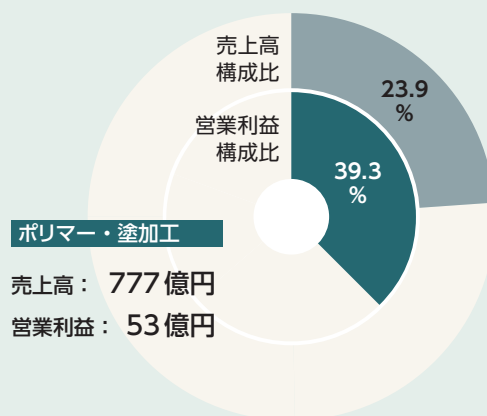
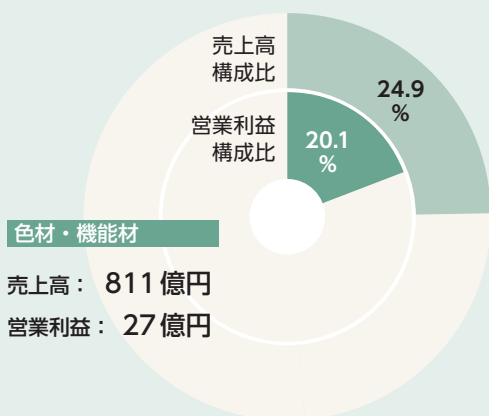


親会社株主に帰属する当期純利益推移・ROE

単位:億円



事業別構成比



※その他の事業については記載を省略しています。

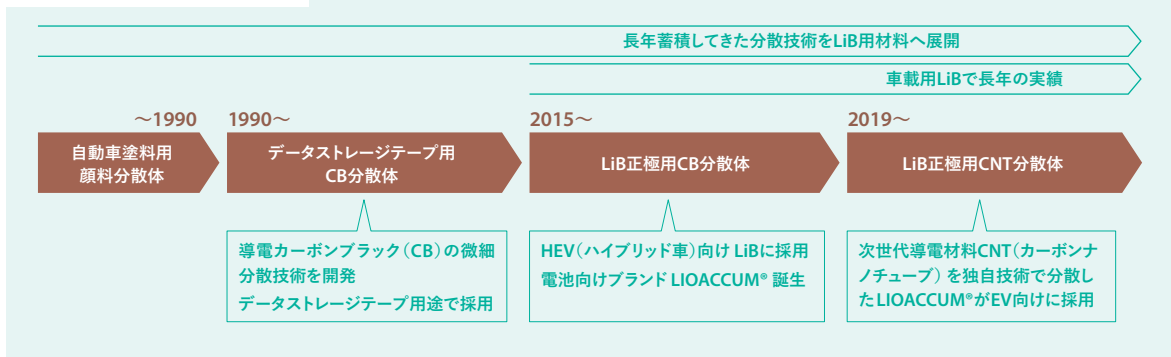
リチウムイオン電池 (LiB) 用CNT分散体事業の歴史と成長性

トーヨーカラー株式会社はカーボン分散に強みを持ち、2015年よりリチウムイオン電池正極材用カーボン分散体を供給し、リチウムイオン電池材料メーカーとしての信頼と実績を積み重ねてまいりました。

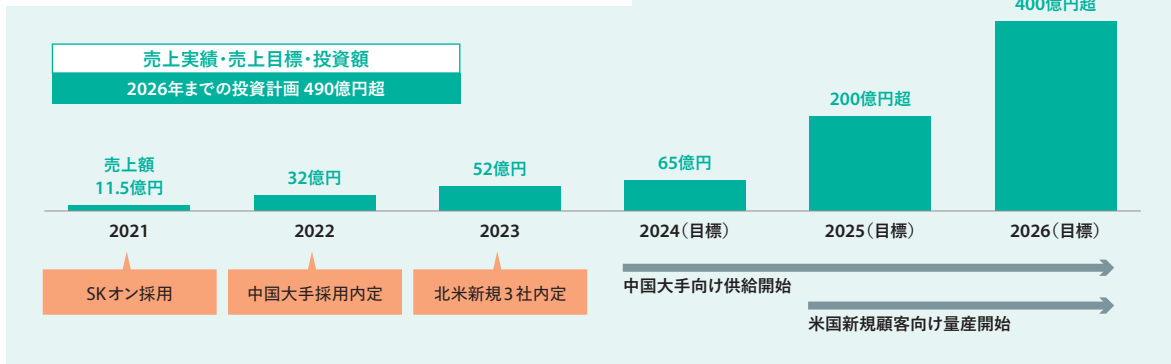
リチウムイオン電池用CNT分散体事業は、当社の中核事業として成長しており、世界規模でのEV普及を通じてサステナブル

な社会の実現へ貢献しています。中期経営計画では、成長事業として2026年度の売上目標400億円超を掲げ、中長期的な利益貢献を目指します。また、投資額は2026年度までに490億円超を予定しており、欧米中日世界4極5拠点での現地生産体制を強化してまいります。

分散をコア技術とした進化の歴史



リチウムイオン電池用分散体 (LIOACCUM®) 売上実績・売上目標・投資額



相川鉄工・萩原工業と、プラスチックリサイクルに関する共同開発契約を締結

～業界を超え、洗浄・脱墨・異材質分離・再生等のプロセスおよび生産機を開発～

東洋インキ株式会社と相川鉄工株式会社、萩原工業株式会社は、より高品質なプラスチックリサイクルを実現するための洗浄・脱墨・異材質分離・再生等のプロセスや生産機等の開発を目的として2023年11月に共同開発契約を締結いたしました。

近年のプラスチックリサイクルにおいて、異種プラスチック、インキ、接着剤等の混入や、汚れの付着などにより再生後のプラスチックの物理的な性能が阻害されることが課題となっています。東洋インキ、相川鉄工、萩原工業の3社は、夾雑物の除去による高品質なプラスチックの再生を実現するために、業界を超えて包括的な技術交流、実証試験等を行う共同開発契約を締結いたしました。

artienceグループでは、2019年に脱墨用コーティング剤および剥離用ラミネート接着剤を開発、その後富士製造所内にリサイクルのパイロット設備を稼働させ、実用化に向けた検証を行っています。素材開発を進展させるとともに、実証データを活用することでリサイクル機器およびプロセスの改良・最適化に貢献いたします。

相川鉄工は、製紙業界で培ったノウハウを活かしてプラスチックの洗浄、異材質分離、脱墨のための技術および装置の開発を進めます。

萩原工業はブルーシートの水平リサイクルで培ったノウハウと再生ペレット製造装置等のリサイクル機器およびエンジニアリング技術に基づいて装置やプロセスの改良・最適化を進めます。

3社はこうした取り組みにより、2025年、洗浄・脱墨・異材質分離・再生等のリサイクルシステムをワンパッケージとしてマーケットに提供することを目指してまいります。

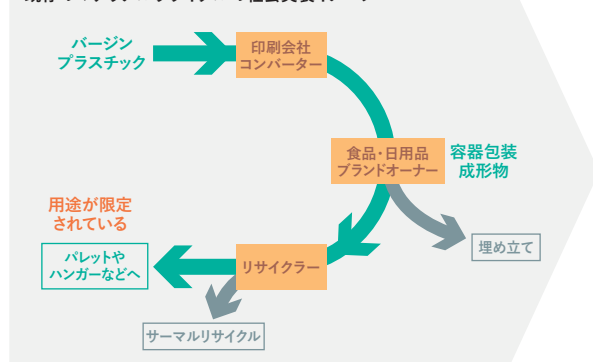
私たちartienceグループは、パートナーのみなさまとさまざまな形で協業して、持続可能な社会の実現に向け循環型社会の実現に貢献してまいります。



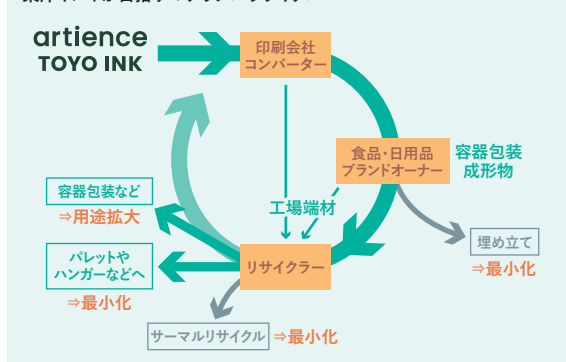
左より (2023年11月当時)

萩原工業 代表取締役社長 浅野和志
東洋インキ 代表取締役社長 柳 正人
相川鉄工 代表取締役社長 濁澤光宏

既存のマテリアルリサイクルの社会実装イメージ



東洋インキが目指すマテリアルリサイクル



連結財務諸表の要旨

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

科目	2022年12月31日現在	2023年12月31日現在
流動資産	2,292	2,309
固定資産	1,819	2,169
資産合計	4,112	4,478
流動負債	1,135	1,240
固定負債	698	682
負債合計	1,833	1,921
資本金	317	317
資本剰余金	325	325
利益剰余金	1,514	1,564
自己株式	△107	△106
その他の包括利益累計額	141	358
新株予約権	1	0
非支配株主持分	87	98
純資産合計	2,279	2,557
負債純資産合計	4,112	4,478

連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

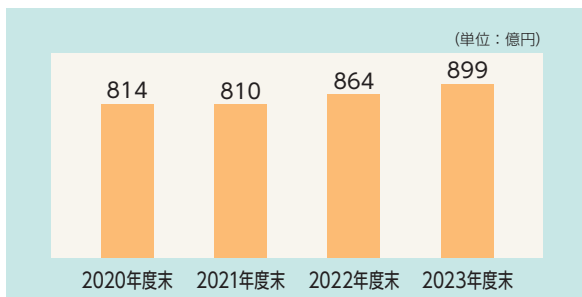
科目	2022年度	2023年度
売上高	3,159	3,221
売上原価	2,617	2,583
販売費・一般管理費	473	505
営業利益	69	134
営業外収益	43	26
営業外費用	33	31
経常利益	79	129
特別利益	59	22
特別損失	15	23
税金等調整前当期純利益	124	128
法人税・住民税及び事業税	28	31
法人税等調整額	1	△1
非支配株主に帰属する当期純利益	1	0
親会社株主に帰属する当期純利益	93	97

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

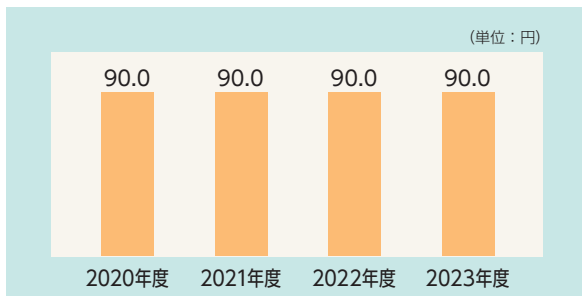
(単位：億円)

科目	2022年度	2023年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	43	235
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56	△195
財務活動によるキャッシュ・フロー	△81	△26
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	13
現金及び現金同等物の増減額	△76	27
現金及び現金同等物の期首残高	609	534
現金及び現金同等物の期末残高	534	560

有利子負債の状況



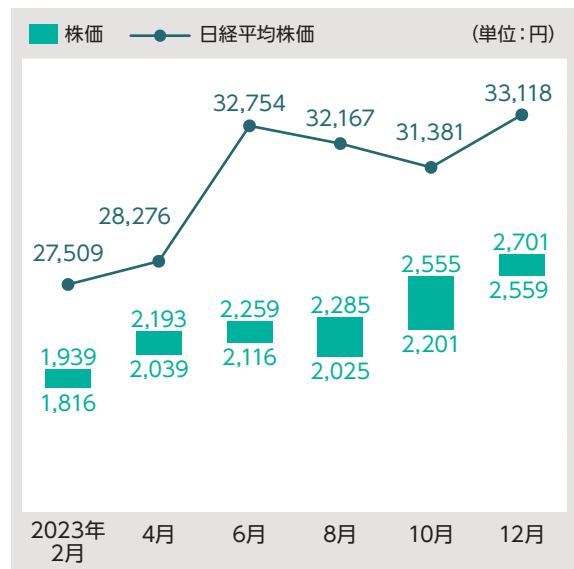
1株当たり配当金



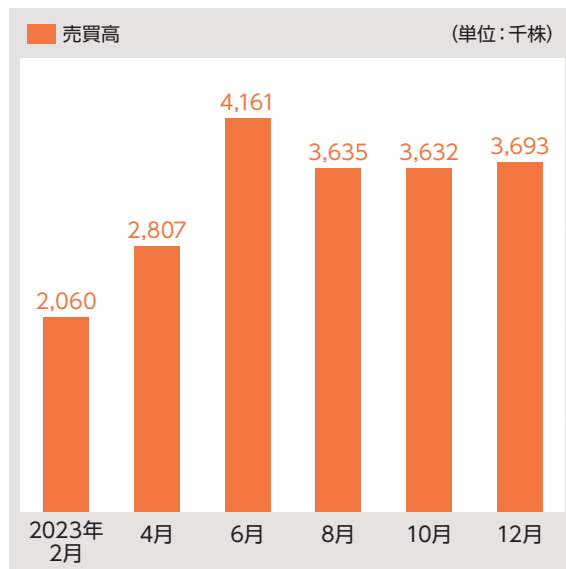
期末配当金：1株につき45円(中間配当金45円と合わせ90円)

期末配当の効力発生日(支払開始日)：2024年3月27日

株価の推移(東京証券取引所)

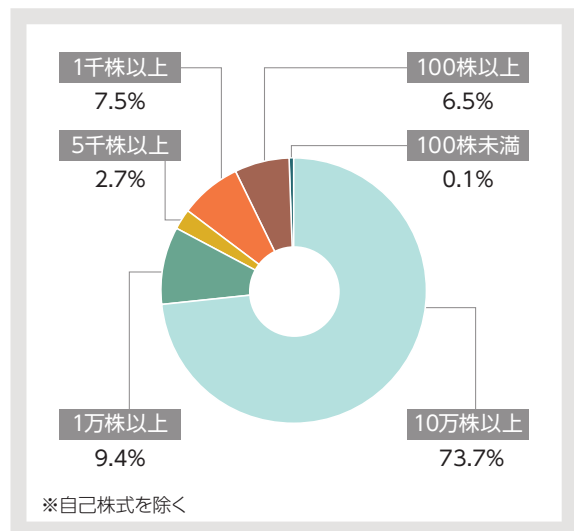


売買高の推移(東京証券取引所)



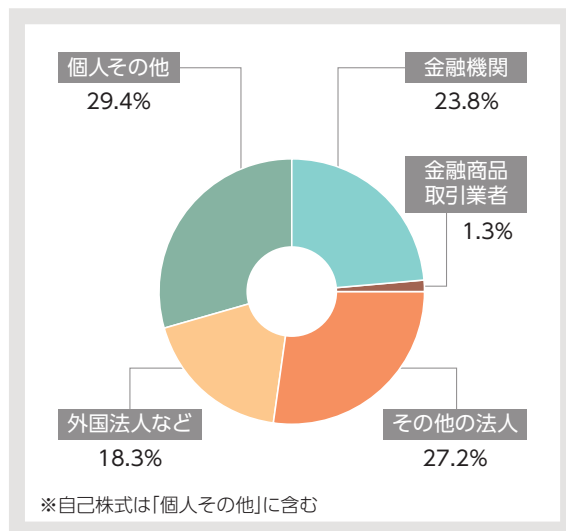
所有数別株式数比率

2023年12月31日現在



所有者別株式数比率

2023年12月31日現在



株式のご案内

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日	■ 定時株主総会・期末配当:毎年12月31日 ■ 中間配当:毎年6月30日
株主名簿管理人 および 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00-17:00(土日休日を除く)

◆ 住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

◆ 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

株主優待制度

毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式を1年以上かつ200株以上継続保有する株主さまを対象に、保有株式数と継続保有期間に応じた優待品を、当社オリジナルカタログから1点お選びいただき、贈呈いたします。毎年9月下旬に当社オリジナルカタログを発送させていただきます。

artience 株式会社

〒104-8377 東京都中央区京橋二丁目2番1号

この冊子に関するお問い合わせ先 グループ総務部 TEL.03(3272)5731
インターネットによるお問い合わせ先 <https://www.artiencegroup.com>
E-mail info@artiencegroup.com



この報告書は、当社グループのTOYO KING® NEX NVシリーズを使用して印刷しています。このインキは、バイオマス度40%以上で、石油系の揮発性有機化合物(VOC)を1%未満に抑えた環境にやさしいインキです。